

林大だより



第 81 号 令和 3 年 3 月 15 日

長野県林業大学校 校友会



令和 2 年度 卒 業 式

林 大

翌松会 会長 相馬 飛雄一



長野県林業大学校四十一期生の皆様・保護者の皆様、ご卒業おめでとうございます。

二年前の春、全国から集まった二十名、多くの子が「何も無い場所に来ちゃった」と感想を述べていました。二年後の今、木曾の林大で学べた良かったと思っっている学生がたくさんいるのではないのでしょうか。知識や技術を学ぶ学校生活だけでなく全員が寮生活を送り共同生活の中から自らを見出し人間形成を図るという「全人教育」の教育方針のもと大きく成長できた二年間だったと思います。同じ学年でありながら年齢も違い生活習慣も違う二十名です。問題も多くあったと思います。不自由な生活で不満もあったと思いますが、それを乗り越えお互いの個性を認め

合い絆が深まって共に過ごした時間はたくさん思い出として残った事でしょう。

上級生となった今年度、新型コロナウイルスの拡大により大きな影響を受けていました。十年続いているオーストリア研修に行けませんでした。とても残念でした。イベントもことごとく中止になってしまい寮祭「木望祭」でピザを焼いたりチェンソーで実演する姿を直接見る事を楽しみにしていました。伐木大会に向けて練習した学生も参加する事もできず無念だったと思います。地域を盛り上げてくれる林大生、みこしまくり、毎年良い成績を残す駅伝大会など地域交流も例年通りとはいかずアルバイトも自由にできず林大生の労働力をあてにしている会社も困ってしまいました。人生の大事な時期に大きなアクシデントが起こってしまいました。林大で多くの事を学んだ皆さんならば全国のどこに居ても活躍をし良い報告を木曾谷に届けてく

れるはずですが、担任の吉川先生をはじめ多くの先生

方、関係者の皆様、地域の皆様、御指導いただきました。有難うございました。

温故知新

長野県林業大学校 校長 丸山 勝規



林・林業に係わる「人」に出会うことが出来ました。

二日目に行った伊勢神宮の森林（宮域林）では式年遷宮に必要な用材となる二百年生のヒノキを育てている技術者の方に出会いました。なかなか経済林では超長伐期の森林を育成出来ないのです。宮域林に合った新たな施業体系を創っているとのことで、学生に「この林地が混交林に見えますか？」と問いかけていたのは印象的でした。新たな施業体系が経済的にも成り立ってば民有林でも…。そんなことを考えさせてくれました。

特に私が心に残ったのは四日目の吉野林業の中心である奈良県川上村での出会いです。吉野地方はスギの大径材を生産している古くからの林業地です。当地も他の林業地と同じく和室を中心とした木材需要の低迷、木材価格の低下に苦しんでいます。このま

までは、林業に携わる者も少なくなり、山村である川上村の存続にかかわる事態になると、新たな取組を始めました。村を始めとして、森林組合、木材協同組合等が協働して法人を設立し、木材生産から加工、製品開発・販売まで行うものです。場合によっては利害が対立するような方々を繋ぐ「人」に出会いました。彼は県を早期退職し当法人の専務となっています。調整型の仕事より現場で夢を持って課題解決していく仕事を選んだとのこと。これらの人々に会って二年生はどのように感じたのか…。

地元の木曾町でも森林・林業を学び、町づくりに活かしていこうという研修会が昨年十二月にありました。ここでも木工や製材など様々な「人々」が新たな試みに取り組んでいる様子を発表していました。

海外に行けない時だからこそ、国内・地元の「人々」を訪ね歩いてみることも、未来の森林・林業の有り様の一端を知るために必要なことかもしれない。

自らも夢を見つけ、その実現に必要な「人々」を訪ねる、そんなことをしたいと考えた年明けでした。

森林風致とグリーンインフラ

京都大学名誉教授 森本 幸裕



みなさま、グリーンインフラってご存知でしょうか。

「自然が持つ多様な機能を賢く利用することで、持続可能な社会と経済の発展に寄与する社会基盤や土地利用計画」のことです。森林には木材生産だけでなく、実にたくさんの多面的な機能が備わっています。コンクリートのダムに象徴されるグレイインフラは想定内の条件での機能は万全なのですが、概して単機能で自然環境負荷が大きく、耐用年数やコストも問題です。温暖化で激化する災害の一方で、人口減少に財政難を考えると、自然の機能を活かさない手はありません。

そして今、新型コロナ禍で世界中が大変です。この新興感染症の背景には、行き過ぎた自然の改変や経済のグローバル化、都市化があるようです。私達は新型コロナウィルスとも共存しないといけない時代のあり方、過密をさけた生活様式や森林など自然資源の適正な活用が問われているのです。

感染防止の方法はワクチン接種やマスク手洗いだけではありません。自然免疫が重要なのです。人間の免疫機構には、感染やワクチンで新たに獲得される免疫だけでなく、もともと異物を排除する自然免疫系が備わっています。これを維持するには、まず体内時計を狂わさないこと。つまり生活リズムを守ること、積極的に運動すること、ストレスを避けること等が大事です。森林はそうした活動の恰好のフィールドとなります。

私は長野県林業大学校で森林風致計画学を担当させていただくようになって四年。授業では、森林風致の意義のひとつとして、心の癒やしや免疫機能を高めることも紹介し

てきました。京都大学では次世代型統合医療（緑の環境を生かし、西洋医学と代替医療を組み合わせた医療）にも取り組んで、大阪万博の森や京都御苑の森での実証実験で確か

めたこともあります。林大生には、木材資源の活用に加え、人と地球の健康にも貢献する森林を継承していく重要な担い手として、大いに期待しています！

林大生に期待すること

株式会社吉本 代表取締役 由井 正隆



昨今の世の中はコロナ禍によって、大変なことになっております。特に、飲食や旅行業界では未曾有の不況ともいえる苦境にあると思います。

までは需要減少が激しく、木材生産活動がストップ状態になりました。その結果、昨年暮れから新年にかけては、合板工場を中心に各工場の丸太在庫が減少し、結果として需要不足の中、丸太不足が顕著となりました。

ワクチンの接種もまもなく始まるようですので、早期に正常化することを期待したいものです。

我々木材業界では、コロナ禍による影響は軽微と思われるておりましたが、住宅建設の減少となり、住宅部材としての木材の需要減少となって顕在化しております。具体的には、昨年の六月以降、十一月

ご承知のように、日本の山林は資源が充実し、切って・育てて・育てる循環型林業の時代に入っております。その中、丸太の伐採は主に冬期間に行われますが、コロナ禍の最中でも、素材生産業者はフル生産体制に入っております。コロナ禍での需要の縮小はあるものの、底堅い需要に支えられ、需要に生産が追い付かない状況です。

地球温暖化の原因とされる温暖化ガスの排出が大幅に制

限される時代となりました。日本政府でも、二〇五〇年にはゼロカーボンを目指すようです。又、同様の目標を掲げる国が世界で一二〇か国以上となっているようです。ゼロカーボンが世界の目標となる中、温暖化ガスの吸収源と言われる森林の持つ役割がクローズアップされそうです。

林大生の役割が世の中で求められる時代となりました。林大で学ぶことは世の中で求められております。伐採から始まる資源枯渇のない循環型林業のノウハウは世界中で必要とされると思います。林大卒業後に各職場で世の中の即戦力として活躍するために、林大で学ぶ知識や技術を楽しんで自分のものにしてください。全寮制で体験できる人と人との付き合いも現代社会では得難い体験と思います。良い仲間をつくり切磋琢磨しながら成長し、世の中で求められる人材となってください。

林大生の活躍する舞台は無限に広がっていると思います。コロナ禍による不安はありますが、木材業界は皆さん方を喜んで受け入れますので、夢と希望を持って勉強に励んでください。

学生のページ

あすなるの呟

つぶやき

学校・寮生活から

今まで
生活をしてきて



1学年 奥谷 仁人

林業大学校に入学してから八か月経ちました。最初は、寮生活や学習のことで様々な不安がありました。寮生活では、毎日がとても楽しくあつという間に過ぎてしまいます。

その楽しい中、厳しいご指導をしてもらえたのでメリハリがしっかりつきました。学習では今まで習ってきたこと以上の講義の難しさ、本格的な実習や難しい一般教養がありまだまだ不安なことがいっぱいあります。しかし、そういった学習もとても新鮮で面白いので頑張れます。また、実習も多く体を動かすことが多い

ので頑張れます。

残り二か月という少ない時間で先輩たちが卒業されることはとても悲しいですが、後輩ができたときに先輩みたいななかつこよく何でも教えることができ、頼れる先輩になれるようしっかり真似をして残りの時間寮生活を過ごしていこうと思えました。



1学年 10月 森林土壌学



1学年 10月 トップガン研修

二年生の目標



1学年 那須 祐己

私は二年生になったら目標としていたことが二つあります。

一つ目は一年生の時以上に勉強に力をいれることです。二年生になると就職活動がありそのための勉強も必要です。

が就職してから知識不足で仕事に支障をきたさないように、学生のうちに多くのことを学びたいと思います。

二つ目は、寮の雰囲気作りです。今まで私たち一年生を助けてくださった先輩方は三月に卒業してしまい新入生が入学してきます。寮生活は、ずっと友達や先輩などと過ごしているのが仲良くなれてすごく楽しいものです。しかし私も入学したての頃は初めての先輩と同部屋の寮生活だったので緊張していることが多かったですが、先輩が優しく接してくださったおかげで寮生活が楽しいものに変わったので、私たちも早く新入生に寮生活に馴染んでもらえるようにしたいと思います。

二年生になると一年生の時よりも大変なことが増えると思いますが気が緩めずに頑張りたいです。



1学年 11月 体験研修（そば脱穀）

一年間を
振り返って



1学年 牧 心太

長野県林業大学校に入学してから、早くも一学年としての生活が終わりに近づいてきました。振り返ってみると、最初は寮生活がどのようなものなのか学習では何を

かなど様々な不安がありました。また、入寮時には早く学校を卒業したいという気持ちが強くなりましたが、優しい先輩方や仲間と寮生活を過ごすことで毎日が楽しく、一日があつという間に過ぎていきました。気付けばもう少しで二年生になりあと一年で卒業してしまうと考えたら早く感じます。授業面では、今までに習っていない講義や一般教養もありました。今までに習ったことがない学習は今思えば面白かったです。また、今年にはコロナの関係であまり実習先に行くことができませんでしたが、実際の現場に行ってみると初めて見るものばかりで、いろんなことを学ぶことができました。

残り一年数か月で終わってしまうので、自分の将来を決めるために学習をすることも、仲間と一緒に様々な経験をし残りの学校生活を送りたいです。



林大生活を
振り返って



1学年 渡邊 百南

早いもので、二年間の長野県林業大学校での生活の最初の一年が終わろうとしています。

入学する前から不安で仕方がなかった寮生活にも慣れ、今では楽しむ余裕すらあります。

思い返してみると、入寮したばかりの頃は知り合いが一人もない土地で初めて会う人たちとの共同生活で緊張し、胃が痛くなっていました。しかし、ひとつ屋根の下で生活していく中で先輩方は大変よくしてくださり、同期たちとも関わっていくうちに緊張は解れ、いつしか胃の痛みはなくなっ



1学年 12月 治山工学

いました。勉強面では、一般教科に加え、専門教科の学習があり、今まで触れたことのない知識に触れる機会ができました。新しいことを学ぶのはとても楽しく、自分なりに理解を深め、技術的なことに生かせるように頑張っています。

来年度は新しい一年生が入ってきて、私たちは先輩になります。私に先輩方がしてくれたように、彼らが学校生活に早く馴染むことができるよう手助けしたいと思います。

もう二年たったの!?



2学年 岡本 幸春

寮生活に馴染めるか不安でいっぱいだった入寮日がもう約二年前になってしまいました。入学前に見たパンフレットに書いてあるカリキュラムや行事もほとんど終えてしまいい、卒業式が近づいています。

この二年間は人生で最も刺激的な時間でした。屋久島研修から始まり、御嶽山、駅伝大会、木望祭、トップガン研修、三林大伐木選手権、二年次の校外研修…本当に楽しい時間でした。登山部としても、木曾駒ヶ岳、奥穂高岳、槍ヶ岳などの山々に登頂することができ、充実した時間を送ることができました。寮生活では喧嘩をしたことや、上手くいかずイライラしたこともありましたが、どれも



2学年 11月 オーストリア研修 (オンライン研修)

自分を人間として成長させてくれる経験だったと思います。今年度は新型コロナウィルスの影響で満足な実習、講義を行うことができず、外出も制限されましたが、バラエティに富んだ友人、寮生の皆がいるおかげで笑いの絶えない生活を送ることができました。

卒業後は地元青森とは遠く離れたこの長野の地で働き始めます。林大で培った知識、経験と人脈をフル活用して乗り越えていきたいと思っています。ありがとうございます。

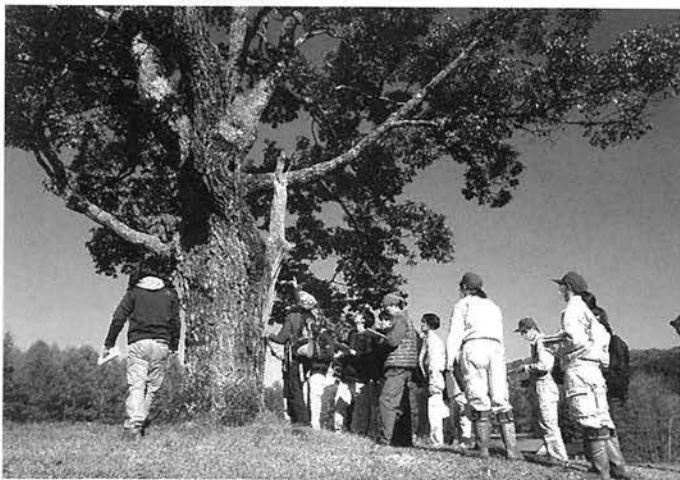
二年間を振り返って



2学年 桑原 二千夏

私が入学してから二年の月日が経とうとしています。入学当初、二年間は長いと思っていましたが、今ではあっという間だったと感じています。そのように感じられるのも多様な授業や実習にイベント、また周りの人に恵まれたことととても充実した林大生活を送ることができたからだと思います。

また、はじめは全寮制とマイナスのイメージしか無かった寮生活も今では寮生活でよかったです。試験前には友達と勉強に励み、就職試験でも同じ就職先の



2学年 11月 樹木医学実習 (開田高原)

友達と休日まで一緒に勉強したりと寮生活であったからこそ山を乗り越えることができたと感じます。もちろん四人一部屋で自分だけの空間のない四十人での共同生活はストレスを感じることもありましたが、自分を成長させてくれる物だったと実感しています。林大では実習や出場予定だったJLCC二〇二〇に向けたチェンソー練習、東海近畿研修などの思い出だけでなくみんなで食べた寮食など数え切れないほどの大切な思い出があります。

春からは社会人として働くこととなります。林大で得た知識や経験を生かして林業に貢献できるよう努めたいと思います。ありがとうございます。

濃かった二年間を終えて



2学年 塩澤 翔

入学したときは、初めての寮生活に不安を感じていましたが、生活していく中でだんだんと慣れてきました。時々、問題やケンカが起きるなど、めんどくさいこともありました。楽しかった生活することができたと思います。

また、屋久島研修や御嶽山登山、地域のイベントを通して、仲を深め、寮生活をより良いものにできたと思います。そして、毎週水曜日、地域のバスケットボールの集まりに参加し、より多くの人と知り合うことで、ほかの林大生とは違ったかけがえのない経験をすることができました。

バスケットボールのおかげだと強く感じます。

私は、林業大学校を卒業したら、国家公務員として地元から遠く離れた九州で働く予定です。私はマンガグループ林が好きなので、それが長野県よりは身近にあるところに住むことができるのはうれしいことです。慣れない土地で一人暮らしをすることになります。その分苦労することが多いと思いますが、林業大学校での経験を生かしながら生活できたらいいなと思っています。そして自身の夢に向かって日々成長していきます。

振り返って



2学年 松野 優希

縁もゆかりもない土地である木曽福島で、新たな生活が始まることに心を躍らせた日からもう二年近く経っていました。先輩方が「林大での時間は、思っているより早く過ぎて行くよ」と言ってい

たこのの意味が、今なら分かるような気がします。

先輩のその言葉の通り、二年生になってからの一年間は怒涛の如く過ぎ去って行きました。先輩方がいなくなり、自分たちが最高学年になったという事実が重くのしかかってきた次の瞬間には就職活動。それが終われば今度は今まで忙しくて見えていなかった部分に目が行って、無駄な心労が溜まる。一年生の頃よりも遥かに忙しない毎日でした。しかし、そんな日々も同期の女子二人が賑やかにしてくれていたお陰で乗り切れました。もう夜な夜な空き部屋に集まって話すことができないうと思つと悲しくなります。色々と迷惑をかけたことも、時にはかけられたこともあったけれど、女子寮でこの二人と二年間過ごせて良かったと思つています。

私は卒業後、この木曽の地と林業の世界から離れてしましますが、林大で学んだ様々なことを忘れず、人のためになれるような仕事ができるよう精一杯頑張ろうと思つています。二年間、お世話になりました。

二年間の寮生活を終えて



2学年 百木 立風

早いもので、もう卒業の時期がやってまいりました。不安な気持ちを抱えながら入寮してきたことが、つい昨日の

ことのように思い出されます。あの頃から今まで、私は寮生や職員の皆様など様々な方に多大な迷惑をかけながらも、一社会人として成長することができました。そういった方々のおかげで今の私があるということをお忘れずに、今後も生活していきたいと思つています。これからは今まで以上に自分の行いに責任が生じると思うので、それに見合った行動をとれるよう努力してい

きたいです。林大での二年間は、これまでの人生で一番濃く、一番学ぶことが多い二年間でした。普通高からの入学で、学習面の不安はありましたが、卒業までやりきることができ、よかったです。本当にありがとうございました。日本の林業を少しでも盛り上げられるよう頑張ります。



2学年 12月 林業機械学実習 (フォワーダ)



2学年 1月 山の環境学 (乗鞍高原)

保護者の
ページ

松

の

一言

コロナ禍

倉澤 美樹



四十一期生の皆様、保護者の皆様、ご卒業おめでとうございませう。

コロナによる感染拡大は、まだまだ予断を許さない状況



2学年 12月 森林管理コース
野生鳥獣被害対策実習

が続きます。

林大では、全寮制の上、対面授業や校外研修等を受けさせて頂き、楽しく学校生活を送る事が出来、大変有り難い事だと思っております。クラスタの発生のリスクが考えられるのに、先生方、学校関係者の方、地域の方にご尽力頂きありがとうございます。

息子もこの事を承知して、冬休み中も先生方のお話の通り、外食やお友達のお誘いも断り、家の中で過ごしました。

これを見て、息子が責任ある行動を普段の寮生活や学校でも学ばせて頂いていると、成長を感じました。

母として一番安心して居る事は、寮母さんに栄養バランスを考えた美味しい食事を作って頂いている事です。健康的な食生活を送らせて頂ける事に、日々感謝しております。

コロナが無ければ窮屈な行動をしなくても良いのですが、これも将来の糧になるのだと思ひ、こ

の苦しい状況を乗り越え、大きな人間になるよう願っております。

これからの成長

辰見 和也



息子が高校三年生の夏休み前に突然「自然環境や林業のことを勉強したい」と言い出しました。それまで親との会話で、具体的に将来のことについて話をしたことがなかったので両親ともに驚きました。

今年度は新型コロナウイルスの影響により約二か月遅れでの入学式でした。いろいろと心配をしていましたが、林業大学の先生、職員の方々のご尽力のおかげで無事、入学することが出来ました。感謝を申し上げます。

息子を送り出してから早いもので九か月が過ぎ、学校の生活にもだいぶ慣れてきているようです。親元を離れて寮

での生活も少し心配ではありましたが、先輩の方々や同期の仲間とも楽しく過ごせているようで少し安心しています。まだ寮生活が始まって一年もたないですが集団生活の中で学ぶものもたくさんあったようです。残り一年自然豊かな木曾の地で仲間と過ごす時間を大切にして楽しんでほしいと思います。これからの成長を楽しみにしています。

前に進もう

古畑 邦昭



林業大学がある木曾で暮らしているため今年度から副会長になりました。来年度は保護者会長として、学校をサポートしたいと思ひます。

さて、息子が地元に残り林業の仕事に関わりたから林大に行きたいと相談された時、嬉しさややっていけるのか心配で複雑な気持ちでし

た。もともと、前向きに行動する事は苦手なため、全寮制の生活もどうかと：しかし、数ヶ月間寮生活を経験し人々を思う気持ちが育ってきた事や将来の目標がはっきりしてきた姿を見ると林大に入って良かったと感じています。年が明けて学校生活を楽しみながら学業に励んでもらいたい所ですが、昨年から続く新型コロナウイルスの影響により窮屈な日々が続いています。今後の学校生活も心配されますが、コロナ禍だからこそ、限られた木曾の中で楽しく出来る事を発見し、仲間を大切に目標が達成出来るように前向きに頑張ってほしいです。前進あるのみ！

目標

柳澤 徹



私、木曾町には年に数回、仕事でお伺いしています。

国道十九号を塩尻方面から木曾町へ向かう途中、木曾大橋の信号近くに長野県林業大の看板をよく目にしていました。まさか自分の子どもが林大に進学するとは思っていませんでした。

息子とは進路について殆ど話をしませんでした。自分なりに進学をするのか就職をするのか悩んでいる姿を見てきました。

ある日突然、「林業がやりたい」と本人から言われた時、驚きもありましたが、「木曾に林業大学があるぞ」と本人に伝えました。いつもであれば、何故、どうして、と聞くのですが、今回に関しては林大の名前が先に出て疑問に思う事が全くなかったのを、自分でも不思議に思いません。

林大に行きたいと本人が決めた時、親として最大限にサポートしたいと思いましたが、本人には、「林大に行



2学年 12月 資源管理コース 素材生産実習

くのであれば、目標を設定しなさい。大きな目標を設定するのもし、小さい目標を設定し達成したら次の目標を設定しなさい。目標が無いと長続きせず飽きてしまうから。」と伝えました。

現在、全世界が暗い世の中となつています。もしかしたら、息子が設定した目標が達成できなくなる可能性もありますが、林大で学んだ事を誇り、出合いを大切にし、前を見据え、目標に向かって進んでいってほしいと願っています。

二年間の成長

大井 伸也



進学先に長野県林業大学校と聞いた時、「はあ？」と思った。どこからそのキーワードが出てきたのか、しかも全寮制だと。不安で仕方なかった。

卒業を間近に迎え、娘の林大生活が終わろうとしている今、当初抱えた不安など何もなく、本人の口から出てくる言葉は、楽しい仲間との思い出話だったり、聞きなれない専門用語や知識だった。この二年間でよくぞ成長した。コロナ禍で色々行事が中止になってしまったが本人たちはきつと毎日が楽しかったはずだ。

自分の思う林業は、山でチェーンソーを振り回す木こりみたいなイメージだったけど、娘を通じて「木を育て、山を育て、未来のために働く

仕事」だと知りました。今春からその仕事に就き、将来の林業のために働く我が娘を誇りに思います。

最後に、たくさんの方々に教えて頂いた先生方、寮生活を支えていただいた方々、共に学び暮らした同級生、すべての林大関係者に感謝致します。ありがとうございます！

福島から木曾福島へ夢を継いで

菅野 美穂子



「林業。」中学三年の冬、担任に進路を聞かれ長い沈黙の後に放った言葉に強い意志を感じました。小学校一年生の時、給食で食べた枇杷の種を側溝の脇に植え、突然生えてきた木に驚いているとニコニコ笑っていた君。小学校の卒業文集の寄せ書きに、「切つて切つて切りまくる。」と書いて母を凍り付かせた君。高校時代には体育に目覚

め「体育の学校へ行く。」と気の迷いを見せましたが、程なく目が醒め、林業への道を探し辿り着いた長野県林業大学校。あの時の「切りまくる。」は、「木を伐る。」と成り、桜の花が咲く頃には長野で林業に就く事になりました。

君の故郷に起きた大きな嵐から今年で十年になります。里山は未だ手付かずのまま。君が小さい頃、父と山に入つて遊んだようになるには長い時間と、沢山の知恵と技術が必要となるのでしよう。いつの日か君がそんな力の一つになれると良いなと、母の夢も託します。

息子は木曾谷の豊かな自然の中、地域の皆様に温かく支えて頂いて林業を学ぶ事ができました。これまでご教授頂きました先生方、寮生活を支えて下さった寮母の皆様、木曾に大雨特別警報が発令された朝も学校へ駆け付け「私たちが来たからご飯は大丈夫よ。」と、学生を大いに勇気付けて下さったと聞きまし。お世話になりました皆様感謝いたし御礼を申し上げます。

方向転換

林業!?!?

坂 忍



四年制大学に通っていた息子が、腐った生活を送っていた様子を目にしていた私がブチ切れ彼の考えを聞く為話し合いを要求。結果「大学を辞めたい」私はその言葉を聞き「とうとうバカ息子がいかれた!」と感じました。そして続いて出てきた言葉が「林業の学校に行きたい」更に私は「はあああああ!」「林業って何!」「木こり!」「与作!」「カールおじさん!」子どものやりたいことにはできるだけの協力は惜しまないつもりですが「厳しい!」彼が何を学び、どう成長

「はあああああ!」「林業って何!」「木こり!」「与作!」「カールおじさん!」子どものやりたいことにはできるだけの協力は惜しまないつもりですが「厳しい!」彼が何を学び、どう成長

できたのか? 進化することはできたのか? 退化したのか? 人より少し遅れての社会への進出が目前。「学生」と「社会人」延長線のように全く違う世界。それに耐えうる、順応し得る覚悟を持つことができたのか? 二年間それを学ぶ努力をしたのか? 今度は「辞めたい」では済まされない。この先の人生でその成果をMAXに発揮し自分を助け導いてくれた全ての人に感謝見せて頂きたい。



2学年 11月 木材利用コース 木曾漆器づくり実習

林大とは...

塚田 節子



鉄馬は家に帰ってくると、林大での出来事や寮生活について、家族へ楽しそうに話している。

卒業を前に

皆川 篤子



二年前の今頃、念願だった林業大学校合格の知らせを受け、嬉しさと同時にほんの少しの寂しさ、学校や寮生活に馴染めるだろうかという心配を抱えながら新生活の準備を進めていたことを思い出して

てくれる。そして最後は妹や弟達に「寮はいいよ。寮がある所に行きな。楽しいよ」と毎回笑顔で話す。三年前大学受験に失敗。何も決まっていなかった春を迎えた彼から、こんなステキな言葉が出てくるとは思ってもいなかった。進路の決まっていな不安そうな十八歳の自分に伝えて欲しい。「大丈夫。ちゃんと進路を決めて楽しくやっていますよ。何も心配することはないよ」ってね。

います。まだ雪の残る中行われた入学式は、先生方や先輩だけでなく町をあげて新入生を歓迎してくださっているのが伝わるとても温かい式でした。入学式であんなふうに感動したのは初めてで、ここでの生活はきっと大丈夫だと思えたのでした。それからの二年間、帰省するたびに聞く木曾福島での生活は親の私にとっても大切な思い出になりました。屋久島での研修、木曾福島の福ちゃん・しまちゃんになったことや体調を崩し先輩に病院へ連れて行ってもらったこと、近所の方にいただいた食材のこ

林大での生活も残りわずか。これから先、辛く悲しい時間があると思う。でもそんな時こそ、林大で過ごした時間を思い出してみて。きっと力になるよ。背中を押してくれる。今度は未来の自分に叫んでみようか。「何があっても大丈夫。林大を胸にがんばるから」ってね。林大に入ってよかったね。最後になるけど、卒業おめでとう。

となど。たくさんの方の助けがあって、ここでしかできない数えきれない貴重な経験ができたと思います。木曾福島で出会った人たちへの感謝を忘れず林業大学校で過ごせたことに誇りをもって社会に踏み出してほしいと願っています。



新たな社会で 羽ばたけ



卒業生（第一期）
稲村 昌弘

私が、林業大学校に入學したのは、昭和五十四年四月のことです。今から約四十二年前になります。そして社会に出て、早いもので定年の年（還暦）を迎えています。私が学生当時、国内の木材

林大のよき距離感



企画幹 兼 教授
吉川 達也

平成三十年四月に林業大学校へ二回目の赴任をしてから三年が経とうとしています。この三年間は前の三年間とは違い、色々な事があつた三年間でした。平成三十年度は、林業大学校が創立され四十周年の記念

檜のアドバイス

需要量が一億m前後で推移し、比較的高い状況でしたが、外材の輸入量も多く国産材の自給率は現在とさほど変わりませんでした。「来るべき国産材時代を指して」が、まだ合言葉のように言われていて、待てば良い時代が来るのだという甘い夢も持っていた時代です。しかし、社会に出て林業・木材産業に向き合う中でそんな考えは一変しました。

戦後、造林された森林を育てる時代、間伐の時代が私たちの時代です。山づくりに欠かせない「間伐」を推進する中で、切捨て間伐から搬出間伐に至る林業界を見てきました。山に投資したお金の木を売っても返ってこない時代を誰が想像したでしょうか。

木材の価値観は変化し、約半世紀の間に、金銭価値は下がり、人件費は高騰した結果として、林業は丸太を売ってもさほどもうからない商売になっていきます。しかし、こんな状況下でも、事業を継続し収益を伸ばすため、設備や技術を駆使して木材を切り出してくるコストを抑えたり、新しい社会のニーズに合った木材製品の開発で販売量を伸ばしたりしている業界の皆さんも沢山います。その時代に合ったニーズを踏まえて、その時代を乗り切れることは大変なことだと思

います。林大生の皆さんには、ぜひ、将来、役立つ新しい技術を習得し伸ばしてほしいと思います。先輩から受け継いだことを継承していくのも生と一年生との距離感、林大ならではの「近い距離感」が、前回と比較して感じとれなかった年となりました。また、二年生にとっても感じとれなかった遠くても近くに感じる事ができるオーストリア研修が取りやめになり、地元の方と近い距離で続けてきた木曾町みこしまくりに等への参加ができなくなりました。林大の長年続けてきたよい距離感を十分に体感できなかった学生にとつて大変残念な年になってしまいました。このような年でしたが、四十一期生は一人一人が一年

すべき年で、記念式典等のイベントがあり、卒業生、歴代校長先生、外部・内部の講師陣、地域の方など多くの方が木曾の地に集まりお祝いしましたが、その時、林大は四十年という長い間、学生とそれを取り巻く方々との近い距離感でやってきたことを感じた年でした。

それを思いながら平成三十一年度には、第四十一期生の担任を持たせてもらい、近い距離感を持つて第四十一期生の学生と共に学び過ごすことができました。前の三年

間の経験を活かす中で、学生にはできるだけ早くに進路の目標を持ち、それに向けて取り組むことを、できるだけ近くに寄り添いながらアドバイスしてきたと思っています。それに対し、学生達は一年生のうちから、早くに進路に目標を持ち学校生活を送ってくれました。

令和三年度は四十二年間使ってきた翌檜寮も改築となる予定ですが、全寮制の中での「全人教育」の方針は今後も続いていくと思います。今後も、コロナ感染防止対策を取らなくてもよくなった時には、学生同士、先輩と後輩、学生と講師、学校と地域、学校と県や国あるいは海外等、培ってきたものを忘れず、「林大のよき距離感」を取り戻していただきたいと思っています。

学生の活動報告

令和2年度は対外的な活動が制限される中、学生は出来ることを精いっぱい行い、いろんな意味で思い出に残る1年間となったのではないのでしょうか。ここに記載した内容はほんの一部ですが、地元や地域の人々とのつながりを大切にする長野県林業大学校の伝統を受け継ぎ、次年度も活躍してほしいと思います。

現代林業の表紙を飾る



長野林大の華・5人組。笑顔が素敵です。

ボランティア活動



1・2年がスタッフとして参加し、雪の台座づくりや氷のキャンドルを並べるなど、寒くて冷たい中、頑張りました。

2 学年（東海・近畿研修）



伊勢神宮（内宮）の社殿前にて。
これから正式参拝するため正装しています。

1 学年（木曽街道宿場巡り）



馬籠宿 登
(この後、8Kmの峠越えがあるとも知らず…)